

令和6年度 「ハッピー♥スマイル」 第3回開催報告

1 開 会

【日 時】 令和6年9月15日（日） 13:00～
 【場 所】 浅口市金光公民館 1階視聴覚室
 【参加者】 保護者4名 子ども2名 医師1名
 養護教諭1名



2 アレルギー情報提供

成人領域のアレルギー性疾患では、 交差抗原性や特殊な病型にも注意が必要です

花粉 - 食物アレルギー症候群 (PFAS: pollen-food allergy syndrome) ¹⁾

花粉症に合併することの多い食物アレルギーです。花粉に感作した人が花粉と交差抗原性をもつ特定の食物を食べたときに主に口腔症状(OAS: Oral allergy syndrome)を呈することがあります。成人の食物アレルギーではめずらしくありません。

飛散時期	花粉	花粉と関連性のある主な食物
春	1～6月 ハンノキ シラカンバ	リンゴ・モモ・大豆(豆乳)など
	2～4月 スギ	トマト
夏	4～10月 オオアワガエリ カモガヤ	メロン・スイカ・キウイなど
	秋	7～11月 ヨモギ ブタクサ

花粉アレルギーと果物のアレルギーは構造が似ているため、アレルギー反応が起きやすくなります。イガイガ、かゆい、口や唇の腫れ。

花粉の飛散時期は、関連性のある食物による症状も出やすいとされています。

ラテックス - フルーツ症候群 (LFS: latex-fruit syndrome) ¹⁾

ラテックスアレルギーの人がラテックス抗原(Hev b 6.02)と交差抗原性をもつ果物を食べたときに症状が出る場合があります。ラテックスアレルギーが疑われた場合には、ラテックスだけでなくラテックス由来のアレルゲンコンポーネントHev b 6.02特異的IgE抗体検査も組み合わせて活用することでより詳細な診断につながります。

吸入・その他	食物
職業性 ラテックス	果物 バナナ・キウイ その他リスクの高い食物 アボカド・クワ

食物依存性運動誘発アナフィラキシー (FDEIA: food-dependent exercise-induced anaphylaxis) ¹⁾

原因アレルゲンを食べただけでは症状がなく、食べて「運動」(二次的要因)が組み合わさった時に症状が起こりやすい病態です。

主な原因食物		
穀類 小麦	甲殻類 エビ・カニなど	果物 キウイ・リンゴ・バナナなど

特定の食物摂取 + 食物摂取後の二次的要因 (運動、散歩や入浴、飲酒、NSAIDs服用にも注意) → アナフィラキシー

動物飼育に関連した食物アレルギー ¹⁾

動物を飼っている人が動物アレルゲンと肉類の交差反応によって食物アレルギーを発症することがあります。

pork-cat 症候群

動物アレルゲン: 動物 (ネコ皮膚) + 食物 (肉類、豚肉)

動物の刺咬傷による食物アレルギー

α-Gal syndrome (読み方: アルファ ギャル シンドローム) ¹⁾

マダニ咬傷により感作された人が交差反応により獣肉アレルギーを発症することがあります。マダニ生息地域における山野での活動がある方の症例が多いですが、イヌやネコなどのペットに寄生したマダニ咬傷でも起こりえます。症状は、牛、羊、馬、鹿などの4つ足動物の肉の摂取により誘発されます。

マダニ咬傷 + 食物 (肉類、牛肉) → α-Gal syndrome (遅发型(2～6時間)で発症)

パンケーキ症候群 (経口ダニアナフィラキシー) ¹⁾

お好み焼きやホットケーキの摂取による全身性のアレルギー症状は小麦が原因ではない場合があります。食品中に混入したダニが原因となっていることがあります。特に、常温で数か月保存されたお好み焼き粉やたこ焼き粉をつかって調理されたものを食べているときは要注意です。

吸入・その他 (室内塵、ヤケヒョウヒダニ) + 食物 (穀類、小麦) → パンケーキ症候群

Thermo Fisher SCIENTIFIC 社の「大人の食物アレルギー」のパンフを参考に、交差抗原性や特殊な病型の食物アレルギーの注意点を説明しました。

○上越市立小でまた給食アレルギー事故 学校はマニュアル無視 ずさんな対応再び 教訓生かされず（上越タウンニュース）2024. 9. 13 （養護教諭より）

上越市教育委員会は2024年9月11日、同市立小学校で卵アレルギーの低学年児童が給食後にアレルギー症状を発症し、救急搬送される事故が起きたと発表した。発表は学校が一定程度適切に対応したという内容だったが、実際は市のマニュアルを事実上無視した対応で、内服薬の投与などを教職員が行わず、エピペンの使用も1時間以上後になるなど極めてずさんだったことが上越タウンジャーナルの取材でわかった。同市では昨年9月に重篤な給食アレルギー事故が起き、今年2月に再発防止策などをまとめ、研修会などを実施してきたが、教訓は生かされなかった。また、市教委は今回、搬送当時の児童の症状について「重篤な状態ではなかった」としているが、保護者は「重篤なアナフィラキシーショックを起こしていた」としているなど双方の認識も食い違っている。

○上越市給食アレルギー事故 診断名知りながら公表せず 専門医の検証は市教委と反する結果に（上越タウンニュース）2024. 9. 17

上越市立小学校で起きた低学年児童の給食アレルギー事故で、市教委はアナフィラキシーショックとした医師の診断を保護者から伝えられ公表を求められていたにもかかわらず、公表しなかったことが2024年9月17日までに、上越タウンジャーナルの取材でわかった。また、保護者が駆けつけた際、学校側は安静にすべき発症後の児童を玄関まで歩かせ出迎えさせていたことも新たにわかった。市教委は原因物質の皮膚への接触が原因と発表したが、アレルギー専門医である主治医が児童の皮膚に卵を付着させ検証を行った結果、症状は出ず、接触ではアナフィラキシーは起きないと結論付けた。今回の事故について市教委の発表の正確性が問われる事態となっている。

この記事は教育委員会と保護者との説明に食い違いがあります。今後の報道が待たれます。マニュアル通りに運用できなかったのが問題だと思われます。

3 情報交換

- ・4月から職場復帰されたお母さん。こども園に子どもさんが通っています。仕事中にアレルギーが発症したらと心配されていましたが、今のところトラブルなく過ごされています。周りも先生だけでなく、同じクラスの園児もアレルギーのことを知っていて危ないことはしないようにしてくれているようです。
- ・中学生の子どもさん。喘息のコントロール不良で、テゼスパイアの注射を開始しています。2022年9月に販売承認された生物学的製剤（遺伝子組み換え）です。4週間に1回自己注射（皮下注射）しています。お母さんが注射していますが、疼痛があり少しつらいようです。
- ・その他いろいろと情報交換ができました。



次回は、11月17日（日）浅口市健康福祉センターで、情報交換をしたいと考えています。多数のご参加お待ちしております。

（浅口医師会 高山 晴彦）